

小學地球問答

緒言

近世文學盛大にして地學の書も又
 之から信と雖も此一本を地球上
 國々の廣袤風俗等概畧に記載し
 其意を問へを分解し之を答へ得
 易き浅旨と為し小學地球問答と題
 し多量初學者の輩注意し多量の
 問答

特31
977



小學地球問答

緒言

近世文學盛大にして地學の書も又
 之からばと雖も此一本を地球上
 國々の廣袤風俗等其概畧を記載し
 其意を問へを分解して之を答へ得
 易き哉昔と為し小學地球問答と題
 するに初學者の輩注意し多し其の
 多し其の

明治九年圖書局發行

小學地球

第一

世を自然學業の一助として爲す
其の如く童蒙輩必ず机傍に閣き進歩
の一端と爲し給はんを

明治九年十月

廣澤信房誌

馬

廣澤信房

福

功

學地球問答

第一章

廣澤信房編輯

○地理學トハ如何ナル學問ナリヤ

○地理學トハ地球ノ形状カタチ海陸ノ位チ置人民ノ開否風俗ノ同異等ヲ考窮スル學問ナリ

○地球ノ形状ハ如何ナルモノゾヤ

○地球ノ形状ハ圓マ休キナルモノナリ

勝參識

地球問答



○地球ノ圓躰ナルハ確證有リヤ
確證數ヶ條有リ今爰ニ一二ノ證據ヲ舉ケテ説キ明カサン

○海邊ニ立テ蒸氣船ノ走ルヲ觀ル時船ノ漸々遠ヅカルニ從ヒ帆檣ノ見ヘテ船ハ見ヘザレ氏更ニ高山ノ上ニ登テ望ム時ハ船モ帆檣モ再々見ユルハ地球ノ圓躰ナル第

證據ナリ

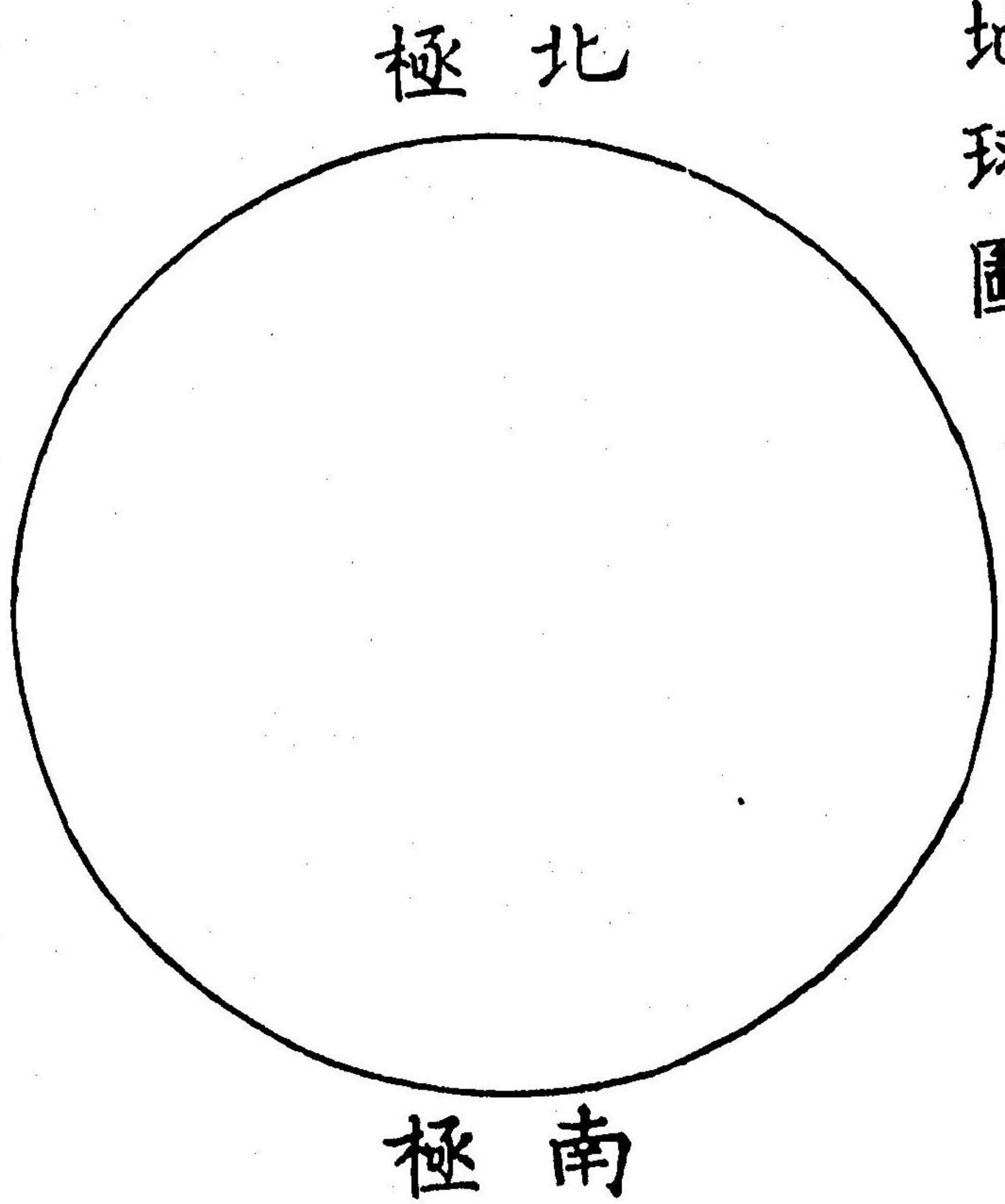
○日本ヨリ蒸氣船ニ乘テ西方ニ進ミ歐羅巴洲ヲ經テ直ニ亞米利加洲ヲ過ギ又太平洋ヲ渡レバ再ビ元ノ日本ヘ歸航スルハ地球ノ圓躰ナル
第二ノ證據ナリ
○此ニケ條ノ證據ニテ地球ノ圓躰ナルヲ明カナリ

○地軸トハ如何ナルモノヲ謂フヤ
○地軸トハ地球ノ中心ニ一ツノ軸ト
スル所有テ萬古方向ヲ變セザルモ
ノヲ謂フナリ

第二章

○南極北極トハ如何ナルモノヲ謂
フヤ ○地軸ノ兩端南北ノ極ヲ謂フ
ナリ

○左ノ圖ヲ觀テ其位置ヲ知ル可シ
地球圖 ○赤道ト



ハ如何ナルモノヲ
謂フヤ ○
南極ト北
極トノ中
央同シ距

離ノ處ニ

在ル線ヲ

謂フナリ

○下ノ圖

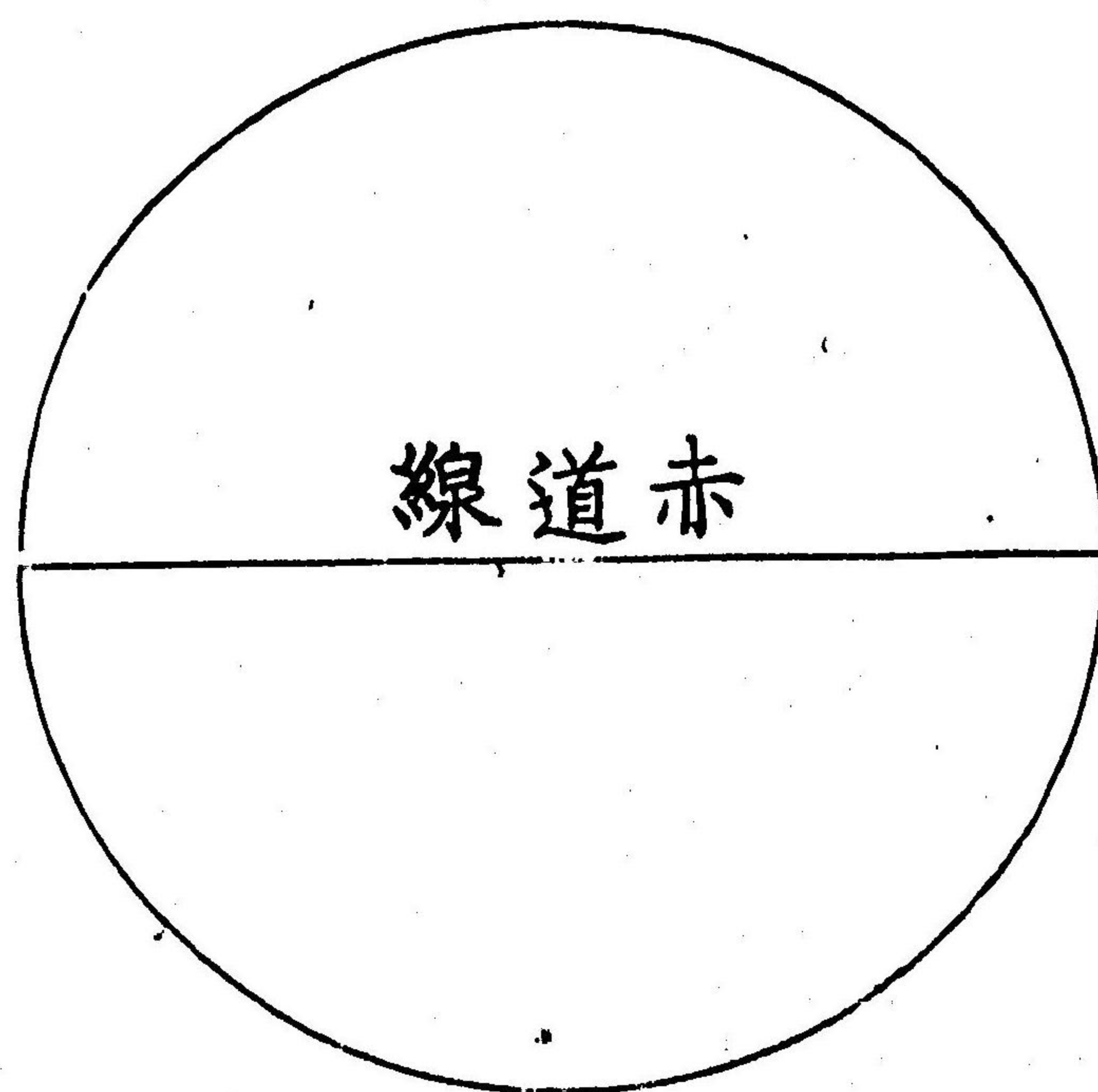
ヲ觀ヨ

○經度ト

ハ如何ナ

ル線ヲ謂フヤ①經度トハ赤道ヲ貫

極北



極南

ト豎ニ畫

シタル線

ヲ謂フナ

リ

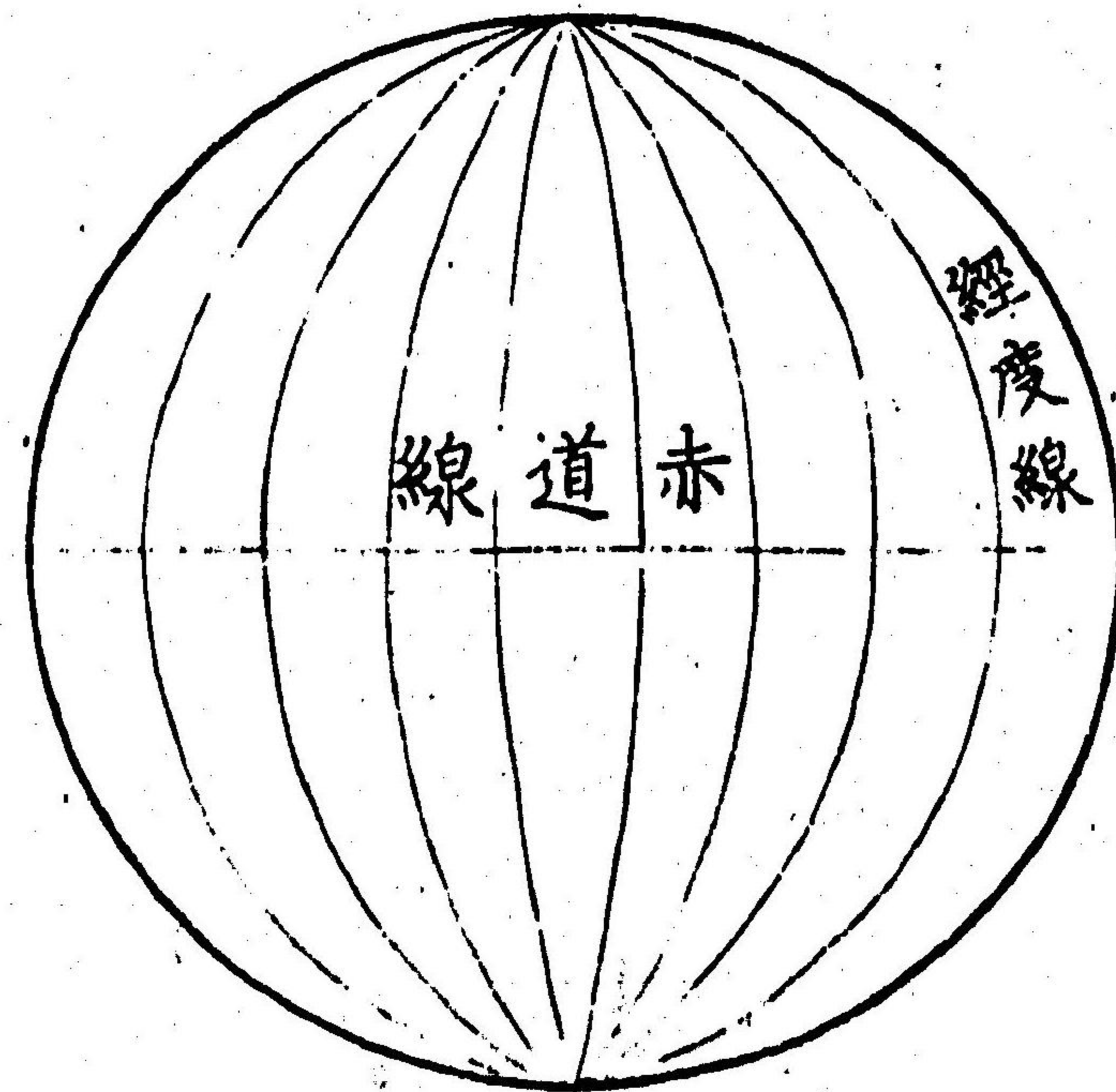
○下ノ圖

ヲ觀ヨ

○緯度ト

ハ如何ナ

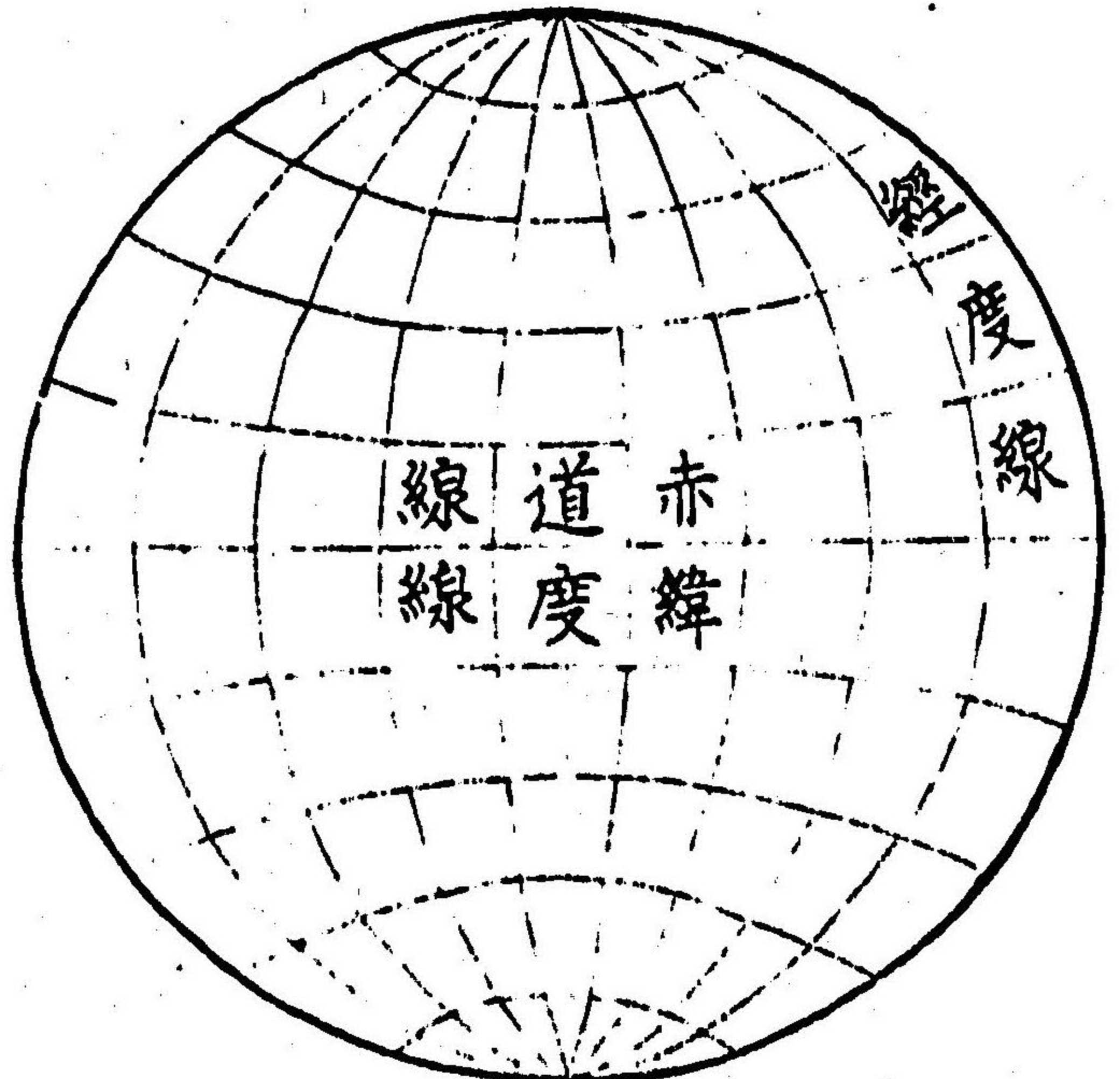
極北



極南

ル線ヲ謂
フヤ○緯
度トハ赤
道ト平行
シテ横ニ
畫シタル
線ヲ謂フ
ナリ

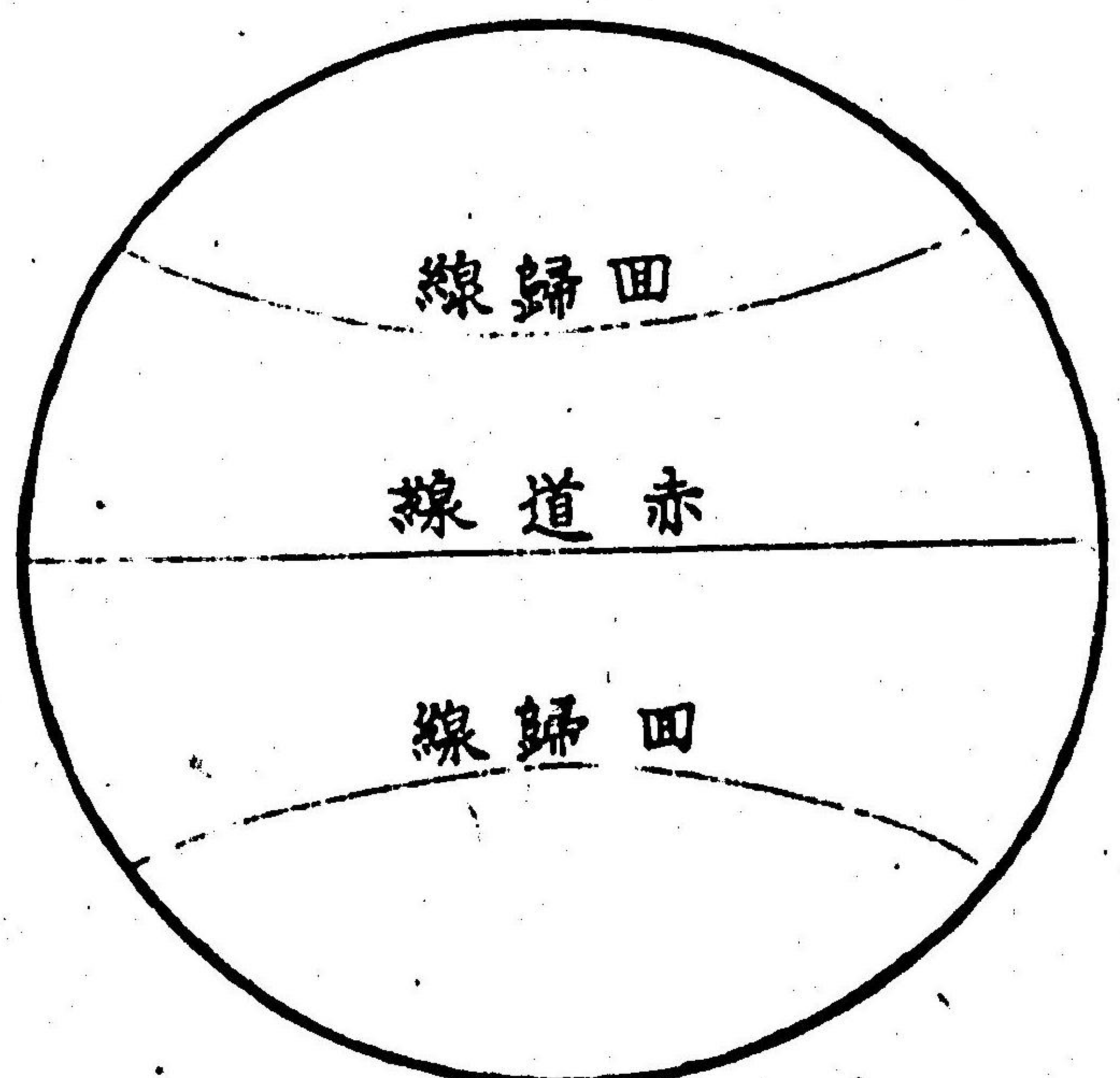
北極



南極

○前ノ圖ヲ觀ヨ

北極



南極

○回歸線
トハ如何
ナルモノ
ナリヤ○
赤道ノ左
右二十三
度半ノ所

ニ畫シタル二線ナリ

○前ノ圖ヲ觀ヨ

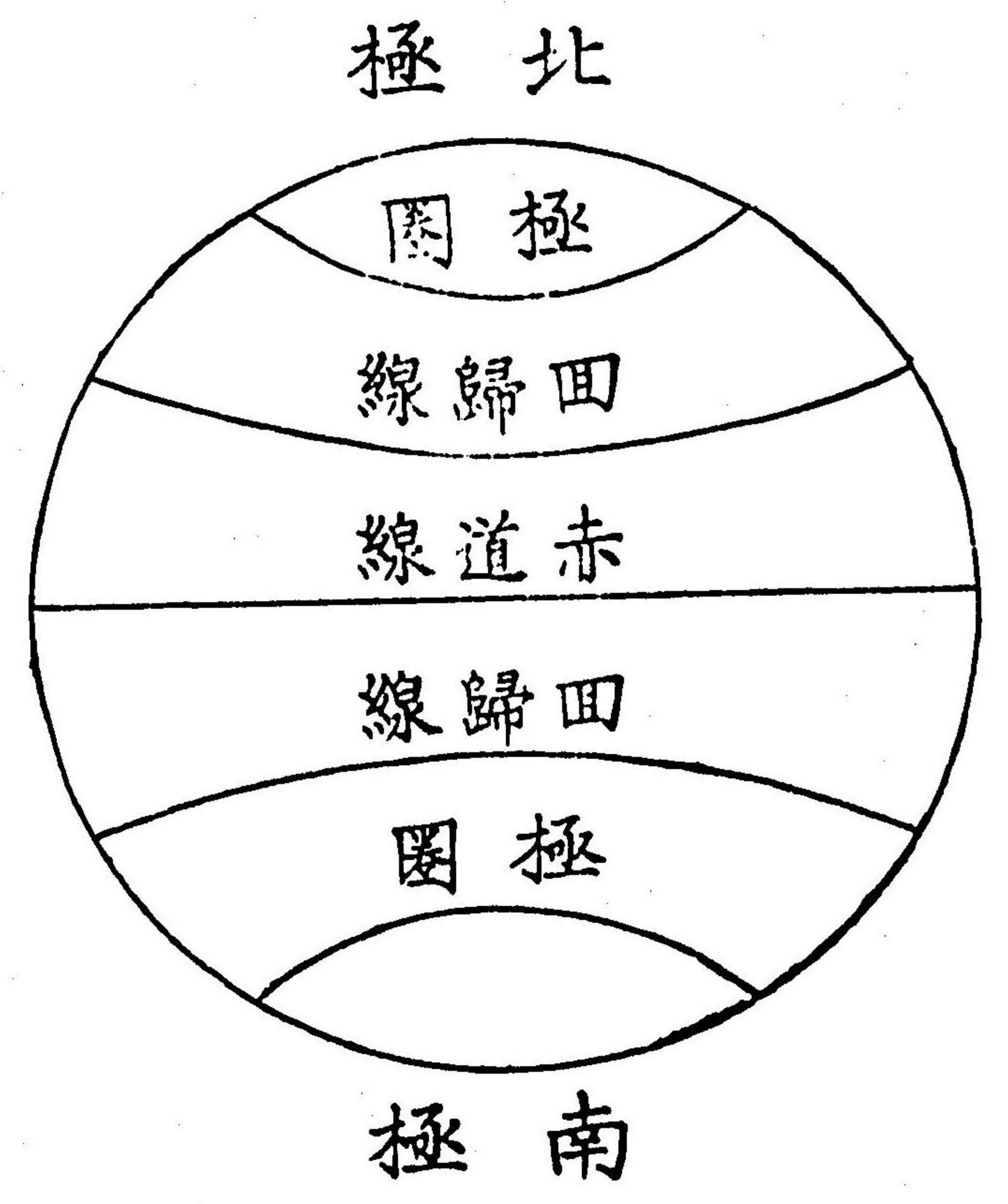
第三章

○極^{キョク}圈^{ケン}トハ如何ナルモノナリヤ○

兩極ヨリ各二十三度半ノ處ニ畫シ

タル二線ナリ

○次ノ圖ヲ觀ヨ



○熱^{ネツ}帶^{タイ}ト

ハ如何ナ

ル所ヲ謂

フヤ○熱

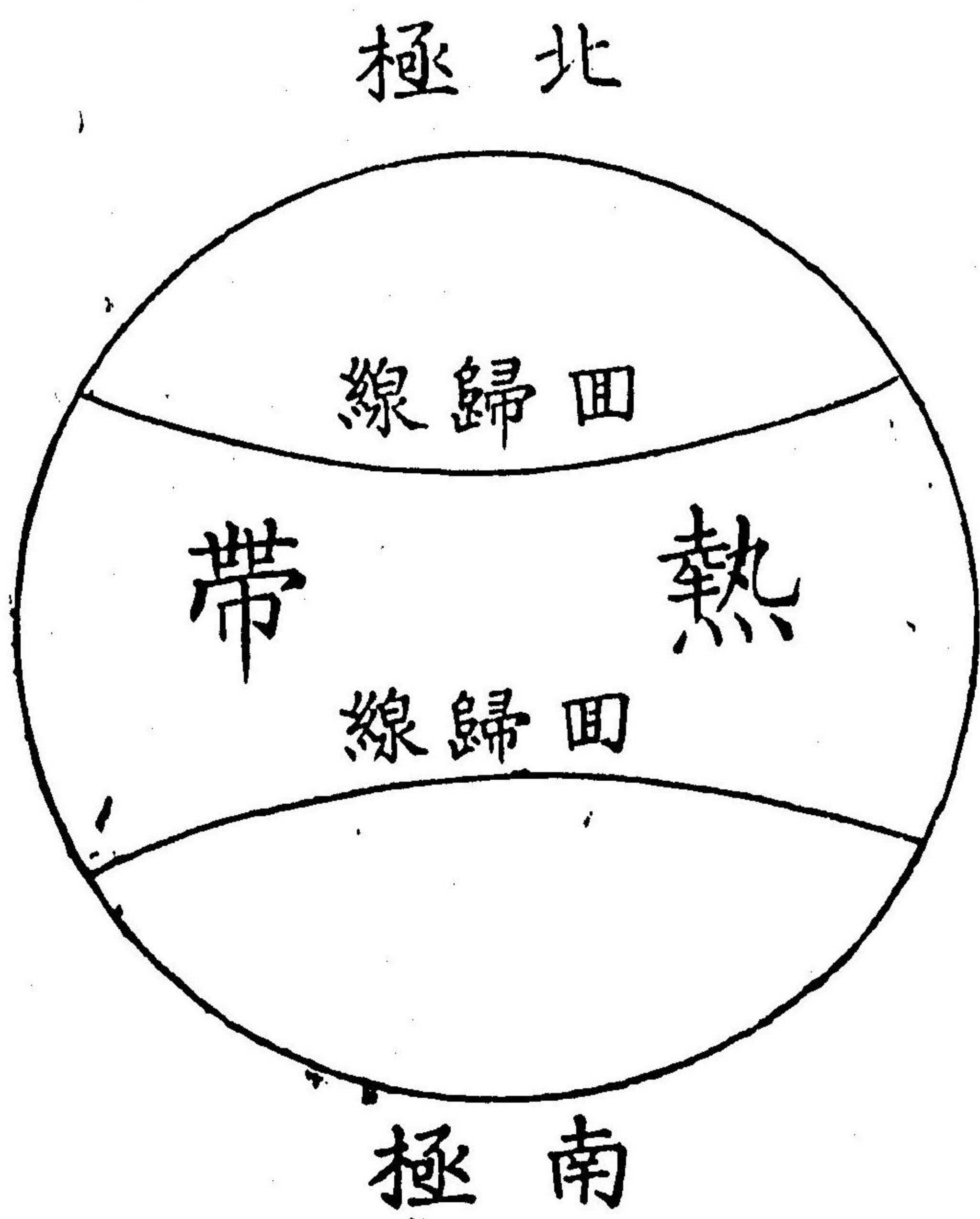
帶トハ二

ノ歸國線

ノ中間ヲ

稱スル之

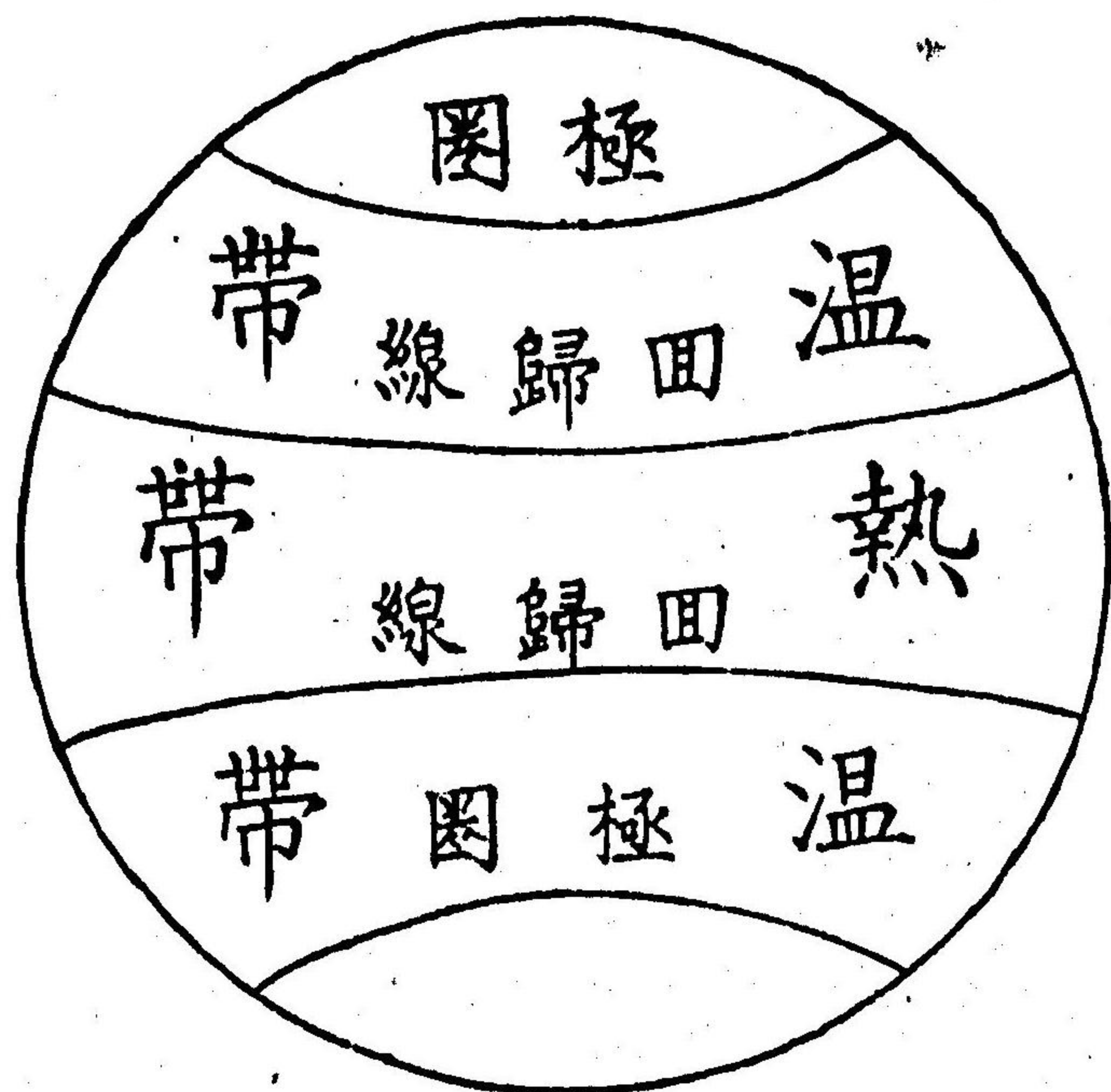
○左ノ圖ヲ觀ヨ



○溫帶ト
 ハ如何ナ
 ル所ヲ謂
 フヤ○温
 帶トハ南
 北ノ極圏
 ト田歸線

トノ中間
 ヲ稱スル
 ナリ
 ○下ノ圖
 ヲ觀ヨ
 ○寒帶ト
 ハ如何ナ
 ル所ヲ謂

北極



南極

了ヤ○寒

帶トハ南

北西極圈

ヨリ兩極

ニ至ル迄

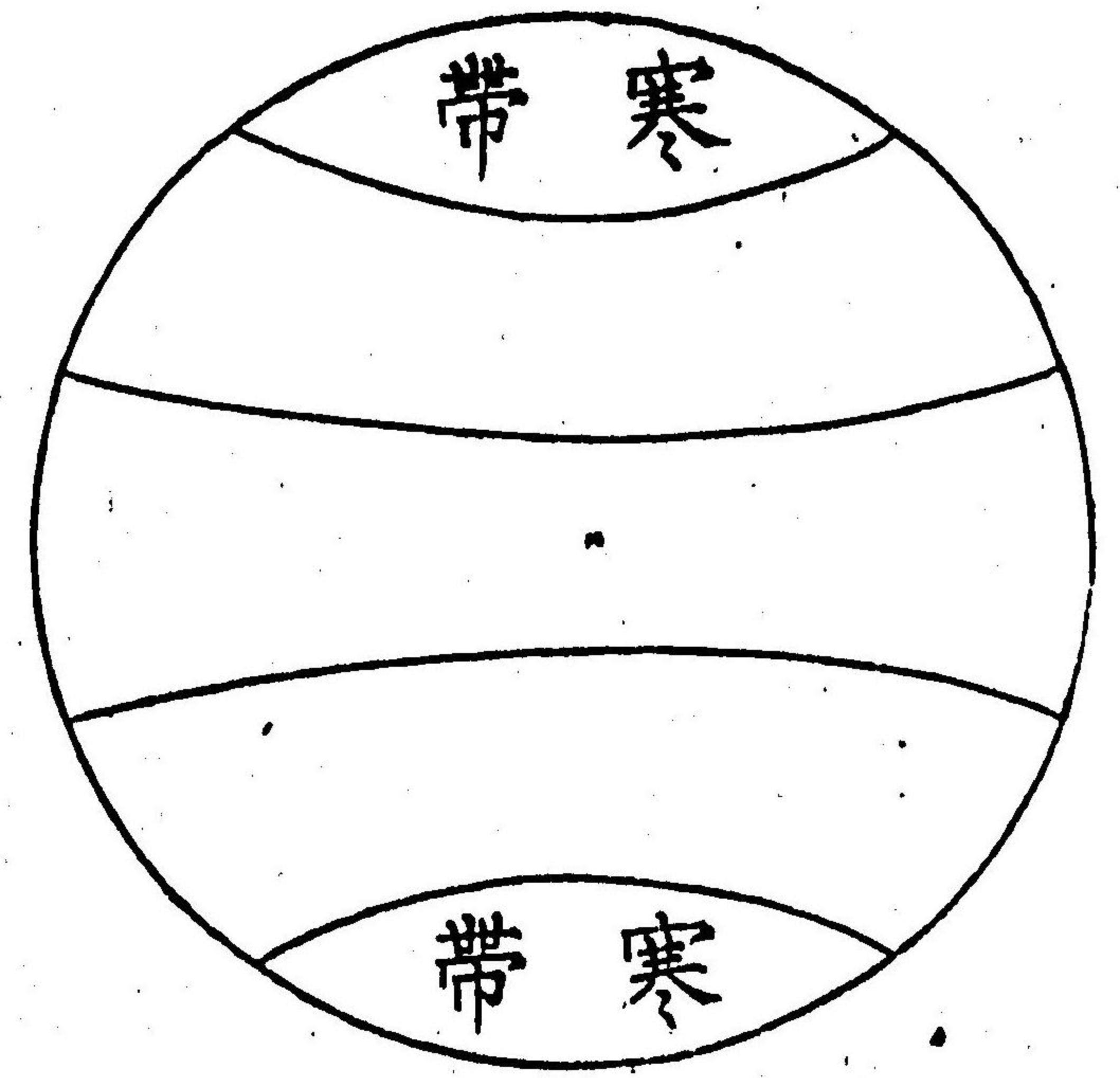
ヲ稱スル

ナリ

○右ノ圖ヲ觀ヨ

北極

寒帶



寒帶

南極

第四章

○地球ノ表面ニ大洋幾箇アリヤ○

地球ノ表面ニハ亞細亞、歐羅巴、南北

亞墨利加、阿西亞、尼亞、五大洲有ル

ナリ

○地球ノ表面ニ大洋幾箇アリヤ○

地球ノ表面ニハ大平洋、大西洋、印度

洋、北冰洋、南冰洋ノ五大洋アルトナリ

○山トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其
 レハ陸地ノ凸處ツカキトコロヲ謂フナリ
 ○溪トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其
 ハ兩山ノ中間マシナカヲ謂フナリ
 ○島トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其
 ハ四周ケルリニ海ノアル陸地ヲ謂フナリ
 ○半嶋トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○
 其ハ一方陸地ニ連續ツグシ一方海面ニ

半出ツギシタル地ヲ謂フナリ
 ○港トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其
 レハ船舶ノ碇泊ニ便利ナル海邊ヲ
 謂フナリ
 ○灣トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其
 ハ海邊ノ膏形ユシ、カキヲ爲シタル處ヲ謂フ
 ナリ
 ○岬トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其

地理學
 卷一
 十二

ハ陸地ノ海中ニ出デタル角ヲ謂フ
ナリ

○海峽トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○

其ハ兩嶋ノ中間ニ在ル海ヲ謂フナ

リ

○海盆トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○

其ハ兩陸ノ中間ニ在ル長キ海ノ兩

方ノ面ニ連ナル處ヲ謂フナリ

○暗礁トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○

其レハ大石巨岩ノ海底ニ在テ船舶

ヲ阻礙スルモノヲ謂フナリ

○地峽トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○

其ハ兩陸ノ中間ナル狹キ地ヲ謂フ

ナリ

第五章

○高原トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○

其ハ少シク高キ陸地ヲ謂フナリ
 ○低地トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○
 其ハ少シク低キ陸地ヲ謂フナリ
 ○沙漠トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○
 其ハ流水草木等ナクシテ耕作スル
 能ハサル礫确ノ地ヲ謂フナリ
 ○河トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其
 ハ常ニ流レテ絶ヘザル水ヲ謂フナ

○湖トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其
 ハ平地又ハ山上ニ在ル池ノ如キ水
 ヲ謂フナリ
 ○澤トハ如何ナル處ヲ謂フヤ○其
 ハ地面ノ窪凹ヲ爲シタル中ニ水ノ
 溜リタル處ヲ謂フナリ

第六章

○世界ノ人種ハ幾類アリヤ○五類
アリ

○第一ニハ高加索○第二ニハ莫古

○第三ニハ以日阿伯啞○第四ニハ

巫来由○第五ニハ亞墨理加ナリ

○第一ノ高加索ハ如何ナル人種ナ

リヤ○高加索ハ身體長大ニシテ肌

膚雪白、眼中碧色ニシテ隆鼻ナル人

種ナリ

○第二ノ莫古ハ如何ナル人種ナリ

ヤ○莫古ハ身體長大ナラズシテ肌

膚黄色、頭髮漆黒ニシテ低鼻ナル人

種ナリ

○第三ノ以日阿伯啞ハ如何ナル人

種ナリヤ○以日阿伯啞ハ顴骨高ク

シテ口唇厚ク肌膚黒色ニシテ頭髮

ノ 捲縮スル人種ナリ

○ 第四ノ 巫来由ハ如何ナル人種ナリ

リヤ ○ 巫来由ハ肌膚棕色ニシテ面

廣ク頭髮甚タ柔軟ナル人種ナリ

○ 第五ノ 亞墨利加ハ如何ナル人種

ナリヤ ○ 亞墨利加ハ肌膚赤色ニシ

テ頭髮稀ニ鬚髯少ク深目廣鼻ナル

人種ナリ

第七章

○ 高加索ノ人種ニ屬スルモノハ何

ノ 國ノ人ナリヤ ○ 歐羅巴ノ人ハ皆

此人種ニ屬スルモノナリ

○ 莫古ノ人種ニ屬スルモノハ何ノ

國ノ人ナリヤ ○ 亞細亞ノ人ハ大抵

此人種ニ屬スルモノナリ

○ 以日阿伯啞ノ人種ニ屬スルモノ

ハ何ノ國ノ人ナリヤ ○亞非利加ノ
 人ハ皆此人種ニ屬スルモノナリ
 ○巫來由ノ人種ニ屬スルモノハ何
 ノ國ノ人ナリヤ ○印度諸島ノ人ハ
 大抵此人種ニ屬スルモノナリ
 ○亞墨利加ノ人種ニ屬スルモノハ
 何ノ國ノ人ナリヤ ○亞墨利加ノ人
 ハ皆此人種ニ屬スルモノナリ

第八章

○世界ニ行ハルノ教法ハ幾何ノ種
 類アリヤ ○教法ノ種類ハ煩多ニシ
 テ枚擧ス可カラズト雖氏最著明ナ
 ルモノハ神教耶蘇教猶太教回教釋
 教婆羅門教等ナリ ○神教ハ我皇國ニ行
 ハルモノニシテ其尊キハ人民ノ皆知ル所ナレ

今爰ニ説キ明カスヲ待タサルナリ
 ○耶蘇教キリスチニスム如何ナル教法ナリヤ
 ○耶蘇教トハ一種ノ神ヲ祭ル教法
 ナリ
 ○耶蘇教ニ新舊ノ二派アリト聞ク
 真ナリヤ否ヤ ○耶蘇教ニハ真ニ新
 舊ノ二派アリテ之ヲ舊教新教ト唱
 フルナリ

○舊教ハ專何ノ國ニ行ハル、ヤ
 舊教ハ南亞墨利加及ヒ歐羅巴ノ南
 方ニ行ハル、モノニシテ其害最モ
 多キナリ
 ○新教ハ專何ノ國ニ行ハル、ヤ
 新教ハ獨逸和蘭英吉利及ヒ北亞墨
 利加ニ行ハル、モノニシテ其弊殊
 ニ少キナリ

○猶太教ジエブスハ如何ナル教法ニシテ何ノ國ニ行ハル、ヤ○此教法ハ耶蘇教ヨリ古ズキモノニシテ昔シ猶太國ニ行ハレ今歐羅巴亞墨利加ニ盛行ハル、ナリ

○回教マホメタンハ何ノ國ニ行ハル、ヤ○此教法ハ土耳其亞拉比亞等ニ行ハル、モノナリ

○釋教ハ如何ナル教法ニシテ何ノ國ニ行ハル、ヤ○釋教ハ空理ヲ談スル教法ニシテ錫蘭後印度支那滿州等ニ行ハル、モノナリ

○婆羅門教バラモンハ如何ナル教法ナリヤ○婆羅門教ハ釋教ヨリ古ク亦空理ヲ談スル教法ニシテ專ラ前印度ニ行ハル、モノナリ

第九章

○文明開化ノ國ハ如何ナル状態ナ
リヤ○學業ヲ勉メ交情ヲ厚クシ農
工商士皆其職ヲ行テ敢テ怠慢スル
ヲ無己ノ身ヲ辱シメス人ノ事ヲ妨
ズ慎テ天道ヲ遵奉スルハ是文明開
化ノ國ノ状態ナリ
○野蠻蒙昧ノ國ハ如何ナル状態ナ

リヤ○學業ヲ勉メ交情ヲ厚クセ
ズ事情ニ遠ク知識乏シク其爲ス所
天道ニ悖ルモノ多キハ是野蠻蒙昧
ノ國ノ状態ナリ

第一章

○東半球、西半球トハ如何ナル部分ヲ謂ヤ ○地球ノ表面ヲ東西ノ二分チ東ノ部分ヲ東半球ト謂ヒ西ノ部分ヲ西半球ト謂フナリ

○東半球ノ中ニハ大洲幾何アリヤ

○東半球ノ中ニハ亞細亞洲歐羅巴

洲亞非利 東半球圖

加洲阿西

亞尼亞洲

四大洲

アルナリ

○下ノ圖

ヲ觀ヨ

○亞細亞

北極



南極

洲ノ中ニハ幾何ノ國アリヤ○日本
支那西比利亞印度比耳西亞土耳其
亞拉比亞等ノ諸國アリ

○日本ハカケマクモカシコキ神武
天皇都ヲ橿原ニ定メ給ヒシヨリ以
來二千有餘年ノ久シキヲ經テ文物
愈盛ニ國威愈輝キ海内以類ナキ
ハ言ハズシテ明ナリ

○支那ハ東西ノ直經千二百餘里南
北八百餘里ノ大國ニシテ域内ヲ十
八省ニ分チ都府ノ夥キ山河ノ壯ナ
ル海内ニ多ク其以テ見ズ然レ氏人
民ノ智識殊ニ狭ク自國ヲ貴テ他國
ヲ賤ニ百事古ヲ師トスルノ風アル
ヲ以テ開化ノ進歩轉遲キニ屬セリ
○西以利亞ハ東西ノ直經一千四百

餘里南北七百餘里ノ大國ニシテ高
山屏列シ大川支流スレテ沙漠ノ地
甚多ク荆棘ノ場少ナカラズ土地ヲ
東西ノ二部ニ別チ人民水草ヲ追テ
上下シ漁獵ヲ以テ業トスルモノ多
ク文化ノ域ヲ距ルテ甚遠シ
○印度ハ其全地ヲ別テ前印度後印
度ノ二トナセリ

前印度ハ所謂天竺國ナルモノニシテ其表面二十三萬二千二百餘里世界中ニ有名ナル高山喜馬拉ヤナルモノ有リ氣候温熱ニシテ頑愚固陋ノ人民甚多ク常ニ偶像ヲ祭り因果冥福等ノ理ヲ好之國体甚固陋ニ屬セリ

(○)後印度ハ其表面十四萬七千七百

餘里ニシテ域内ノ各部氣候最温熱ナリ人民ハ尊鄙ノ別ナク其性殘酷ニシテ狡獪實ニ野蠻ノ甚シイモノト謂フ可シ
○以耳西亞ハ其地表面七萬五千五百餘里ニシテ土地ニヨリ寒熱大ニ異ナル處アリ人民ノ氣象温和ニシテ詩學ニ長スルモノ少ナカラズ

○土耳其ハ其地方十六萬五百餘里ニシテ瘠土沙磧ノ地甚多ク終年雨ヲ降ス_レ殊ニ少ナシ學校ノ設ケナキニ非ザレ_レ人民ノ兇暴ナルモノ儘コレ有リ

○亞拉比亞ハ其表面二十萬餘方里長七百餘里ナル半嶋ノ國ニシテ其中央ニハ大沙漠アリ商人ノ旅行ス

ルモノ此地ヲ經ル時ハ駱駝ニ乘リ隊ヲ爲シテ過ク掠奪ヲ事トスル人民少ナシトセズ

第二章

○歐羅巴洲ノ中ニハ幾何ノ國アリヤ
○英吉利佛蘭西西班牙葡萄牙獨逸和蘭魯西亞以太利等ノ諸國アリ
其他許多ノ邦國アレ_レ一々舉クル

ニ違アラズ

○英吉利ハ全國ノ表面ニ萬五百餘里シテ其屬地各洲ニ跨ルモノ甚多ク政体ハ君民同治ニシテ人民ノ自由ヲ妨クルト無ク上下ノ二院ヲ置テ庶務ヲ統轄シ許多ノ學校ヲ設ケテ士民ヲ教育ス貿易ノ盛ナル軍艦ノ多キ海内未タ以肩スルモノアルヲ

見ズ實ニ文明ノ域ニ入ル國ト謂フ可シ

○佛蘭西ハ其地東西二百里餘南北亦二百里餘ニ下ス京城ノ地ハ氣候温和ニシテ人身ノ健康ニ適シ土地概豊饒田野開墾セサルノ處殊ニ少ナク人々詞藻ヲ巧ミニシ碩學鴻儒累々輩出シ新奇ノ發明ヲ爲シ陸軍

最モ盛ナリ鋒ノ向フ所敵ナク四鄰ヲ懼服スルニ至ルト雖氏全國奢侈ノ風ニ流レ差急慢ノ意ヲ萌ガセシニ因リ往年普國ト兵ヲ接ヘ一敗シテ地ニ塗レシハ惜ム可キノ至リトス

○西班牙ハ其表面三萬六百八十方里餘ニシテ中央ノ地ハ廣原多ク北

方ハ峻高ナル山嶽ヲ遠テス夾世擾乱相續キ嚴刑ヲ設ケテ民權ヲ束縛スルノ風盛ニ行ハレ製作耕藝等ノ業モ往々他邦ノ人ヲ雇テ之ヲ為シ習俗稍頑固ニ屬セリ

○葡萄牙ハ其表面六千一百方里ニシテ國內山脈連續シ高低アリト雖氏多クハ肥沃ノ地ニ屬シ草木處々

ニ繁殖ス學校有テ人民ヲ教育スト
雖氏國勢ヲ大ニ振フニ至ラヌ

○獨逸ハ歐羅巴ノ中央ナル一大列

國ニシテ其中許多ノ邦國アリト雖

氏最モ著名ナルモノハ普魯西プロシヤ填地キス

利ノ二國ナリトス

○普魯西ハ其地ニ萬四千五百八十

方里ニシテ土地豊饒都府壯麗處々

ニ樹木ヲ叢列セル遊園ヲ設ケ街衢

宮室等清麗ニシテ絶テ塵芥ノ氣ア

ルナク人民學術ヲ研究スルヲ好ミ

種々ノ發明ヲナス殊ニ醫學、算學、理

學ノ如キニ至テハ世界無双ト稱ス

可シ又能ク軍卒ヲ指揮シ兵威ヲ輝

カシ鋒ノ向フ所手ニ隨テ挫摧セザ

ルモノ無シ實ニ最大強國ニシテ文

化ノ域ニ入ルモノト謂テ可ナリト
ス
○壤地利ハ其幅負三萬八千方里ニ
シテ山河ノ固雄壯ニ屬スト雖氏上
タルモノノ權カヲ振ヒ以テ下民ヲ鉗
制スルノ風習アルニ因リ文萃盛ニ
開クルモ却テ政体ノ善美ヲ盡スニ
至ラス

○和蘭ハ其幅負二千二百六十方里
ニシテ地勢甚低ク海水浸入ノ患ア
ルヲ以テ常ニ土石等ヲ盛リテ之ヲ
防ク人民温厚和醇ニシテ各種ノ製
造等ヲ務ム學業ノ盛ナル兵備ノ至
レル他ノ文明大國ト比肩スルヲ
得可シ

○魯西亞ハ其地長千三百餘里ニシ

版圖ノ廣大ナル支那ノ右ニ出デ
 文學盛ニ開ケ武備大ニ脩マリ其志
 疆土ヲ廣ムルニ在ルガ故ニ尺寸ノ
 功ヲ争フヲ肯ンセズ人民ノ氣象又
 恢寛ニシテ自ラ餘地アルヲ覺フ
 ○伊太利ハ其廣袤千里ニシテ土地
 膏腴菓木繁茂シ區内山脈綿亘スル
 ノ處アリ人民概ホ游戲ヲ事トシ稼

穡ニ心ヲ用ヒザルヲ以テ風習日ニ
 汗下ニ移レリ

第三章

○亞非利加洲ハ亞細亞ノ西南ニ在
 ル一大洲ニシテ東ハ印度海ニ界シ
 西ハ大西洋ヲ距テ南ハ大南海ニ抵
 リ北ハ地中海ヲ帶ヒ土地極メテ廣
 ク部内ヲ北土中土東土西土南土ニ

分ツ部落甚多ク藥品穀物菓實等ヲ
 産出スト雖氏炎熱ノ氣最酷シク瘴
 癘ノ毒殊ニ稠ゲク人民ノ種類亦下
 等ニ屬スルガ故ニ習俗最モ固陋ニシ
 テ開化稍遲シ又土地沙漠ノ場衆キ
 ニ因リ農功疎惰ニシテ田野荒蕪ニ
 就キ民常ニ奴人ヲ他國ニ賣テ活路
 ヲ營ムモノアリ近來ニ至テ規律稍

整フト雖氏猶野蠻ノ域ヲ脱セザル
 邦國許多ナリトス

第四章

○阿^ア西^シ亞^ア尼^ニ亞^ヤ洲^ハ太平洋^ト印度洋^ト
 トヲ左右ニシタル一群嶋ニシテ其
 中ノ最大ナル一嶋ヲ澳太利ト名ヅ
 ケ北部西部南部ノ三ニ分チ屈^ク因^{イン}斯^ス
 蘭^{ランド}維^{ヴィ}里^{リス}斯^ス等ノ諸土有リテ金屬物産

ヲ出スト雖氏人口寡少ニシテ智識
 廣カラス學問洽不カラザルヲ以テ
 全洲中進歩ヲ開化ニ駸入スルノ部
 落甚タ乏シキニ屬セリ

第五章

○西半球ノ中ニハ大洲幾何アリヤ
 ○西半球ノ中ニハ唯南北亞墨利加
 ノ一大洲アルノミナリ

○下ノ

圖ヲ觀

ヨ西

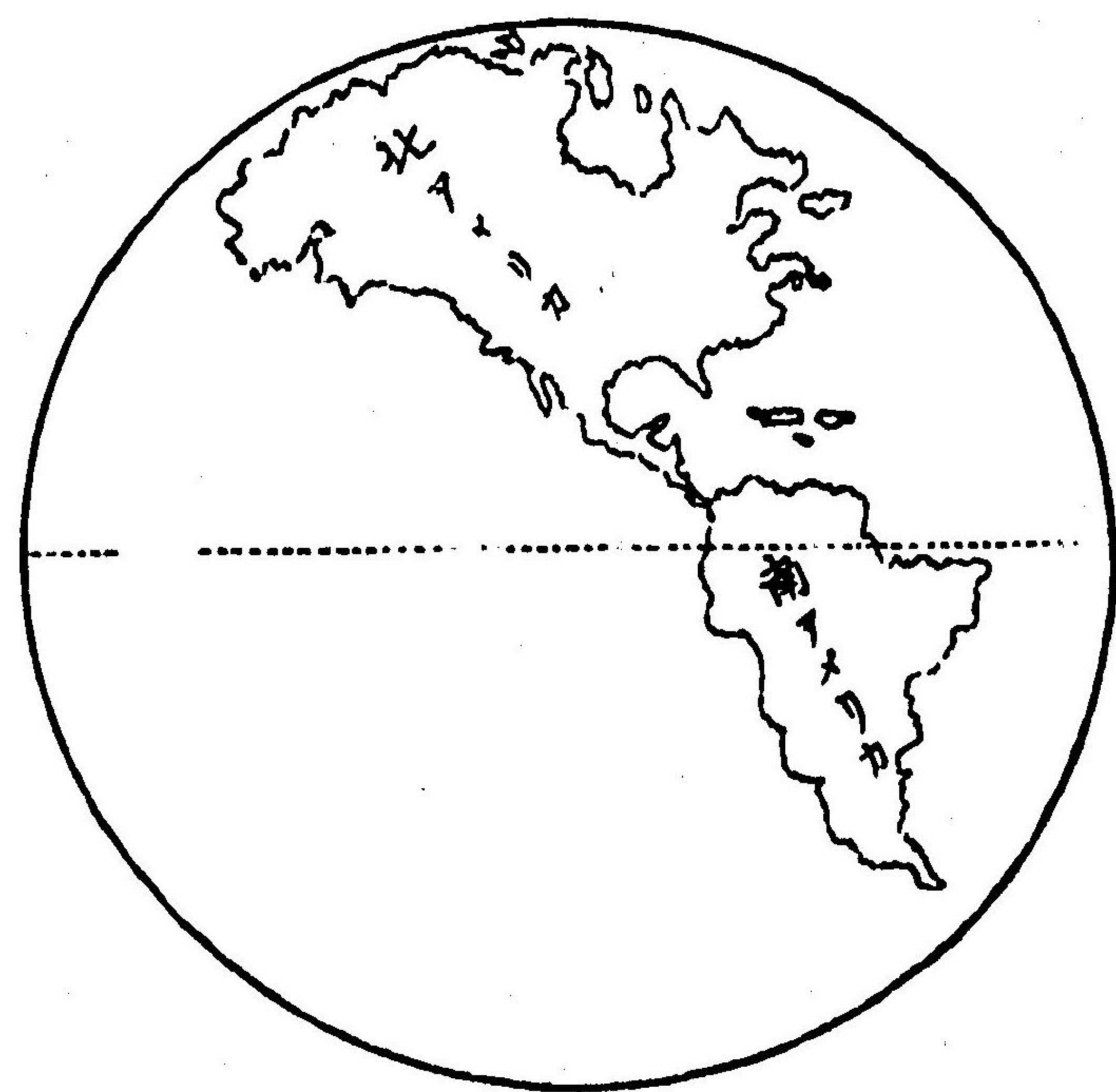
○亞墨半北

利加洲球極

ハ北北圖

冰洋ヲ

距テ南



極南

南冰洋ニ近ク東大西洋ニ接シテ歐
羅巴亞非利加ノ兩洲ト相對シ西大
平洋ニ連リテ直ニ亞細亞ノ東境ニ
抵ルニハ別ニ土壤ナシ人民ハ概不
面色熱赤ニシテ紅銅ノ如ク肢體甚
雄壯ナリ此地ハ元西班牙ノ大將閣
龍ノ發見ニ係リシモノニシテ爾後
各國ノ人民相踵テ群集シ銀礦ヲ掘

リ田野ヲ闢キ漸ク富盛ニ赴キ西班
牙葡萄酒ハ多ク南土ヲ脩メ英吉利
ハ多ク北土ヲ得ルト雖氏我力安永
年間ニ土人英吉利ニ畔キ英吉利僅
ニ北境荒寒ノ土ヲ領スルノニ至
リ我文化年間ニ墨西哥以南ノ地皆
西班牙ニ畔キ葡萄酒ノ領地モ亦失
陷シテ唯英吉利ノ北境ノ隻土ヲ

占ノ其餘ノ地ハ皆歐羅巴ノ約束ヲ
受ケサルモノトナレリ

第六章

○北亞墨利加極北ノ地ハ夏日モ雪
ノ降ルヲ有リテ湖水早ク氷ヲ結ヒ
臘月ニハ星斗常ニ没スルナク五月
六月ノ間ハ晝永クシテ天ノ暮ルヲ
覺ヘズ

○米^メ利^リ堅^{ケン}合衆國ハ北亞墨利加ノ大
國ニシテ其船常ニ花旗ヲ掲ケテ號
トナスニ因リ人呼テ花旗國ト云フ
英吉利曾テ其土人ヲ逐テ土壤ヲ開
キ貿易ヲ盛ニシ漸ク富强ヲ致セシ
ガ税額ヲ收ムルヲ苛酷ナルヲ以テ
衆皆怒リ遂ニ華^ワ盛^シ頓^トナル者ヲ推テ
元帥トナシ英吉利ニ畔キ血戦スル

八年ニシテ英軍ヲ敗リ我天朝二年
英吉利ト和睦ヲ結ヒ境界ヲ定メ北
境荒寒ノ土ハ尚英吉利ニ屬スト雖
凡南方膏腴ノ地ハ悉ク華盛頓ノ所
領ニ歸ス華盛頓遂ニ衆人ノ望ニニ
應シテ大統領トナリ始メテ合衆政
治ヲ起シ農業ヲ務メ工事ヲ督シ文
學ヲ開キ武備ヲ設ケ以テ今日ノ隆

旺ヲ極ムルニ至レリ

第七章

○米利堅ノ各國ハ概ネ氣候温和ニ
シテ土地平坦膏腴ノ壤殊ニ多ク五
穀棉花蔬菜菓木皆備ハテガルナシ
又烟草ノ佳品ヲ産スル甚夕多ク各
國ノ商賈皆之ヲ購求ス山中ヨリ出
ス所ノモノハ石炭鐵白鉛鹽等ヲ以

テ最モ多シトス

第八章

○地球ハ此廣大ナル國々ヲ載セ静

ニシテ動カザルモノカ ○地球ハ此

廣大ナル國々ヲ載セ常ニ自動シテ

休マザルモノナリ

○地球ハ自動ノミニシテ他ノ動ナ

キヤ ○地球ハ自動ヲナシナガラ太

陽ノ周圍ヲ廻ルノ動アリ之ヲ公動

ト云フナリ

○地球ノ自動ハ二十四時ニシテ一

廻シ晝夜ヲナスモノナリ

○地球ノ公轉ハ三百六十五日四分

ノ一二ニシテ一周シ四季ノ變更ヲナ

スモノナリ

小學地球問答終

登園平田清寫

小澤地誌

文部省御蔵版翻刻
訂正地球儀 大形中形小形

右ハ偏シ便利ヲ以テ訂正シ
小學校ニ用ユヘキ珍品ナリ

藤原守光著 中本
日本地名誌全二冊
五幾八道圖入
銅版彩色摺入

中村先生編輯
萬國輿地全圖

銅版色摺小形懷中本 全壹折
附リ各國ノ名○旗○位○都府○氣候○政事向○教方
○人口○里數○產物及○海軍人口○船宿○屬領等残り
ナク知リ得ベキ書ナリ

總生寬編輯
地球儀教授書

該書ハ人ノ棲息スルヤヲ始メ海陸山岳河川州郡ノ
畧境凡テ地球上ノ事柄ヲ明細ニ記シ最モ小學校ニ
用ヒテ初学ノ徒ニ委辦ヘル方今ノ奇書ナリ

竹内壯三郎編輯
日本地誌畧拾遺

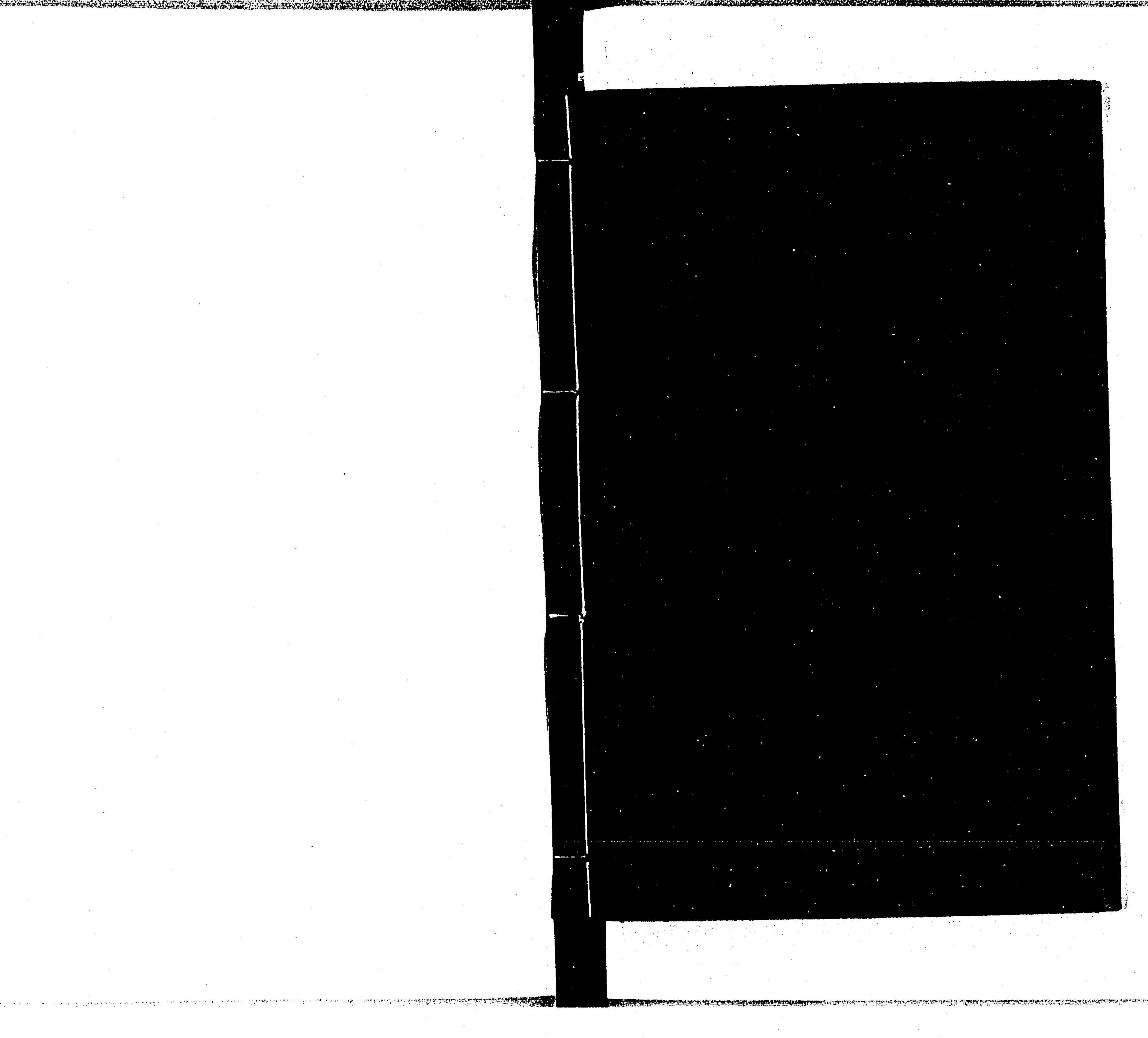
小笠原島ノ部 全壹冊
右ハ小笠原島ヲ詳ニ記シ專ラ小學校ニ用ユル所ノ地誌畧
五卷ニモ成ル可キ全書ナリ

明治九年九月廿二日出版御届
同年十月出版 定價十八錢

編輯人 廣澤信房

出版人 江島喜兵衛

東京第六大區七小區
本所緑町三十八番地
同第一大區五小區
本石町二丁目九番地





特31

977

大日本教育協會			
室		第	
一	八	一	三
冊	號	架	函

一本

021962-000-2

特31-977

小学地球問答

広沢 信房/編

M9

ADA-0212

